

# 企業間連携後押し

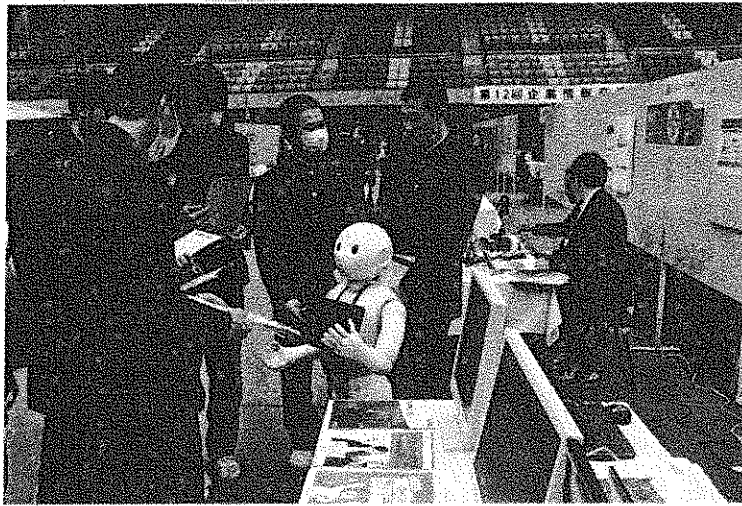
## 岩手、宮城 63社19団体 展示通じ情報交換

岩手、宮城両県のものづくり企業などが集まる第12回企業情報交換会「いちのせき(県南技術)

は21日、一関市狐禅寺の市総合体育館で開かれた。製造業を中心に63

社、19団体が事業の概要や製品を紹介しながら、技術の向上や連携を図った。

タイムもあり、来場者は各ブースを巡って情報交換しながら事業内容や特色について理解を深めた。



展示部門は各企業・団

体のブースを設置。金属製品や電子部品、プラスチック製品の製造業をはじめ、建設業、支援・教育機関が製品サンプルや資料を使って独自の技術などを説明した。

中にはソフトバンクグループが開発した人型ロボット「Pepper

(ペッパー)」を使って、来場者の注目を集める企業も。パワーポイントなどで技術を解説するPR

企業、団体が自社製品や事業内容を来場者にPRした企業情報交換会「いちのせき

同日は千厩高校2年生も訪れ、企業の関係者から説明を受けるなどして

進路選択の参考にした。皆川秀介君は「ソフトウ

エア関係の企業のプレゼンが面白かった。全部見て回って、将来に役立

たい」と話していた。

県南技研の小田嶋次勝

所長は「企業情報交換会は、地域の産業を掘り

起こすという目的がある。地方が今後生き残る

ためには、企業間の協力

と連携は必須になる。企業同士がつながりを持つ

ことで、新たな産業が生まれるはず」と期待して

いた。

いた。

展示後は同市山目のベ

リーホテル一関で講演

会と交流会が開かれ、日

本マイクソフト・マイ

クソフトテクノロジー

センター長の澤田さんが

「これからのAI時代を

生き抜くために必要なコ

ト、教えます」と題して

講演した。